

2008年度(平成20年度)学校評価自己評価表

最終更新日	2008年(平成20年)4月22日
-------	-------------------

校番07	福山市立済美中学校
------	-----------

1 学校教育目標

心豊かに他者とかかわり，確かな学力を身に付けて，
夢を語り，自らの進路を切り拓く生徒の育成

2 経営理念

(1) 地域社会における自校の使命(ミッション)

- 1 どこに行っても通用する生徒の育成(基礎学力・基礎体力・マナー・態度)
- 2 校訓に則り，地域から信頼される学校
- 3 力量ある教職員を育成する学校

(2) 使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像(ビジョン)

- 1 目標を持ち，学ぶ意欲を向上させ基礎基本の学力・体力の定着を図る。
- 2 基本的生活習慣を確立し，あいさつ，奉仕など豊かで元気な心を育て社会性を身に付けさせる。
- 3 各種研修への積極参加と校内諸研修の充実と拡充をすすめる。

3 自校の現状分析

- 1 平成19年度当初に比べ生徒は相当落ち着いてきた。体育授業見学者(特に女子)が激減した。授業での立ち歩きはなく，静寂を保っている。1年，2年の服装違反はゼロかほとんどないが，一方で3年女子は2割程度，スカートが短い。
- 2 学力は概して低いが，新3年生の国語は県基礎基本状況調査において，市平均を上回っており，特に「聞くこと」「書くこと」「読むこと」では県平均・市平均ともに上回っている。数学，英語は，約10ポイント低い。
- 3 授業は静かに受けているものの，意欲があまり見られない生徒，授業が理解できない生徒が一部にいる。また，生徒指導面で課題がある生徒が固定化しており，生活意欲・学習意欲を失っている。
- 4 早朝クラブ活動等は盛んで，土曜日曜含めて，顧問はよく指導している。
- 5 2・3年生に比べ，新1年生のあいさつは活発とはいえず，率先挨拶が課題。
- 6 教職員は，前向きで，意欲的である。また，一体となって組織で動ける協働体制を整えている。校内研修は双方向的で，参加率もほぼ100%で，参画型研修を進めている。
- 7 現主任・主事に続く人材育成を進める必要がある。

4 研究主題

(1) 研究主題

～心豊かに他者とかかわり，確かな学力を身に付けさせる～
「ことば」の力を身に付けさせる教育の創造(全教科・道徳)

(2) 研究指定

指 定	事 業 名 等	期 間
市 市 県	教育研究支援事業 少人数指導推進支援事業 不登校対策実践指定校事業	平成20年度～3年間 平成20年度 平成20年度

5 今年度の重点目標と設定理由

重 点 目 標	設 定 理 由
1 人間関係形成力を育て，社会性を身に付けさせる。	不登校生徒が27名おり，本年度は半減をめざす。きまりに対して安易に考えている生徒がおり，規範意識を育て，自律をめざす生徒の育成が必要。
2 基礎基本の学力・体力を身に付けさせる。	基礎基本定着状況調査，CRT 検査，新体力テストの結果基礎基本の学力・体力の定着に課題がある。

6 評価基準

評価・指標評価	基 準	
A・a	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
B・b	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
C・c	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
D・d	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
E・e	40%未満の達成度	目標を達成できなかった

・ 自己評価(中間)の基準は，10月20日までの計画に対する達成状況とする。

7 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	() 評価	評価項目・指標等 (成果 取組み 成果と取組み に着目)	() 指標 評価	評価項目・指標等 改善方策	短期(中期)経営目標 の達成状況
確 かな 学 力	2	基礎学力の定着		継続	年度末CRT検査で5教科 全てで平均通過率60% 以上。		(ねらい) ねらいを明確にした授業の実施。			
							(規律3要素) 挨拶・時間・環境の徹底			
							(家庭学習時間) 家庭学習時間を1・2年60分以上, 3年90分以上にする。			
				新規	日本一宣言の本年度目標 の達成		英語検定受験者数4割にする。			
							英語検定合格者を受験者の6割にする。			
		ことばの教育推 進	改善 継続	読書習慣を身に付けさせ る。		済美ノートに読んだページ数を記入させ、 表彰する取組みを行い、平均1000ペー ジ読破。				
						「書く」ことの習慣化				
全生徒読書感想文コンクールへの応募や 教科で研究論文・レポートを課し、展示公表。										
					済美ノートへの全8行記述と毎日提出。					

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	() 評価	評価項目・指標等 (成果 取組み 成果と取組み に着目)	() 指標 評価	評価項目・指標等 改善方策	短期(中期)経営目標 の達成状況
確 か な 学 力				新規	根拠発問, 思考促進場 面を仕組んだ授業展開。		全教科学習指導案に根拠発問, 思考場 面を盛り込み, 意識して平素の授 業に生かす。 (公開研・校内研修・授業研究等)			
		生徒が将来の進路 に対して夢や目標が 持てるようにする。		継続	チャレンジウイークの 充実。		事業所アンケートで肯定的 評価90%以上。 生徒の達成感・満足感 90%以上。			
豊 か な 心	2	規範意識, 協調性, 社会性(人間関係形成 力)を育てる。		継続	生徒の自律を育成する 生徒指導体制確立		週1回の生徒指導担当 者会を行い, 問題行動の 昨年比70%以下。			
				新規			学校集会, 校門指導で の服装検査での違反者 1年ゼロ, 2年ゼロ3年 8%以下。			
							相手を意識した行動が とれるよう, SGE や ATを取り入れた学活を 行う。			
							生徒会活動を活性化し, あいさつ運動を実施す ることを通して, 率先 あいさつをする生徒 70%。			

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	() 評価	評価項目・指標等 (成果 取組み 成果と取組み に着目)	() 指標 評価	評価項目・指標等 改善方策	短期(中期)経営目標 の達成状況	
豊 か な 心	2	たくましく生きるための健康・体力づくり		継続	基本的な生活習慣の確立		生徒会委員会諸点検活動、あいさつ運動、発表などを通して、生徒会が活発と思う生徒80%以上。				
							遅刻者への面接・家庭連絡等により、遅刻者を一日平均3%以下。				
							表彰等を意欲につなげ、無欠席生徒50%以上、無遅刻無欠席生徒20%以上。				
	2	不登校減少させる取組み			改善	部活動の活性化		部活強化週間を設定し、部活動出席確認を実施し、90%以上の生徒が部活に出席する。(各学期1回)			
					改善	組織的相談体制を確立し、すばやく組織で対応。		週1回の教育相談部会を実施し、個々の状況に適切で、方向を明確にした動きをする。			
					改善	連続欠席者に対する面談、家庭訪問により、早期対応。		不登校生徒数、昨年度比で半減する。			

市 重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	() 評価	評価項目・指標等	() 指標 評価	評価項目・指標等	短期(中期)経営目標	の達成状況
							(成果 取組み 成果と取組み に着目)		改善方策		
力量 ある 教職 員	1	教育研究団体と 連携した校内研 修の実施		新規	英語部会等と連携し、 校内授業研を実施する。		他校同一教科の教員との実践的研究・協議の 場を設定し、より良いものを交流する。				
	2	参加型校内研修 の継続と充実		継続	全教科・道徳の研究授業 の実施。		根拠発問、思考場面を取り入れた指導案をも とに研修を行い、指導法の工夫改善力の向上。				
				継続	全職員が校外研修に参加 し、還元する。		全職員が校外研修に参加し、研修報告書を作 成する。				
市民 から 信頼 され る学 校	2	学習指導要領等 法令規則に基づ く学校運営		継続	情報の積極的発信によ り、中立性、信頼性の確 保。		学校情報、HP の積極的発信及び更新。 (学校、学年、学級、図書、保健室、生徒指導、 進路など、月1回以上)				
							提案型公開授業研究会の実施				
	2	校長を中心とし て組織的に行う 学校マネジメント		新規	主任主事のチェック機能 向上。		起案文書への正確な処理と対応				
				継続	学校教育活動についての アンケート実施し公表。		生徒・保護者への定期アンケートにより、 C・A を行いながら、肯定的評価度90%。				
	2	教育公務員とし ての自覚と使命 感		新規	服務規定等の法令に関す る知識理解を深める。		広島県教育資料を用いた参加演習型研修の実 施。効果測定の実施。				
新規				学校管理運営関係資料の 21項目について計画的 研修実施。		10項目について、主任主事を研修講師とし て実施。効果測定の実施。					